

それぞれの島立ち

海星中
3年



日笠山 あい 愛

若いまっすぐな瞳には、「挑戦」という言葉がよく似合う。海外に興味を持ち、英検では、一日に何度も単語帳や過去問をやりこみ、高校生でも難しい準2級に挑んだ。文化祭では英語のスピーチを披露。島立ちした後も、英語力に磨きをかけるつもり

だ。その先は夢がある。「アメリカの街の雰囲気が好き。カナダにも行ってみたい」と目を輝かせた。目標達成のために、計画を立て、それに向かって努力する。冷静さと「熱い思い」が両立している。進学する高校は、寮生活で、携帯の使用時間から、勉強時間など細かく規律が定められている。厳しい生活となるが、新たに挑戦したいことができた。「運動系の部活をやりたい。球技よりも、居合とか弓道をやってみよう」。場所は変わっても、目標に向かって挑み続ける。



海星中
3年



中村 さとる 敏誌

中村敏誌は自らを「人見知り」と評価した。だが、控えめな言葉とは裏腹に、その行動は堂々としている。

海陽中では立候補し、生徒会長。同校が休校後、通うようになった海星中でも副会長を務め、周囲の生徒を引っ張ってきた。「学校を変えたかった。全校朝会の時に、人前に立つと緊張するけど、高校でもやってみよう」と野望を語った。

中学では校内放送も担当。朝、昼食、掃除の前には、マイクの前に座り、自分の言葉を伝えてきた。急な放送にもアドリブで対応。先生からも「責任感が強く、任された仕事はしっかりやる」と信頼は厚い。苦手なことでも前向きに挑戦するタイプ。高校では接客の勉強もしたいという。受験の時に宿泊したホテルスタッフの、自信に満ちた対応にあこがれたからだ。「将来はホテルマンになりたい。多人数が苦手だけど、多くの人と関わって、新たな自分を見つけたい」と夢に向かって突き進む。

